

思いやりの中に平和を見つける

(原文は英語)

フォラサデ・ボラリンワ (21 歳)

ナイジェリア

母国ナイジェリアの私が育った場所では、他のコミュニティと抗争を繰り広げていました。常に恐ろしい銃声が鳴り響いていました。もっと恐ろしかったのは、殺人、そして多くの命や財産が失われることでした。抗争が起きるといつも、私たちは同盟関係にある近隣のコミュニティへ避難しました。毎回の抗争が収まる度に、勝った側は多くの人々を殺したと喜んでいました。

ある疑問が私の心に湧き上がったので、周りの人々に尋ねました。「なぜ人が別の人を殺したことを喜ばなければならないのか。どうして私たちは殺し合いを続けているのか」。しかし、私が求めていた答えをくれた人は、誰もいませんでした。

私のコミュニティは常に攻撃を受ける側でした。私たちは苦しい試練の被害者でした。数週間から数カ月続く避難生活の後、私たちは荒廃した我が家に戻り、学校へ行く準備をしました。もう一つの厳しい戦いは、私たちが学校で直面した屈辱や挫折でした。それは私たちにとって終わりのない戦いでした。私たちに抗争を仕掛けたコミュニティの若者たちと同じ学校に行くことで、いじめられ、嘲りや冷笑を受けることになりました。先生たちは知っていましたが、何もしてくれませんでした。

学校で受けたひどい扱いは、学習に対する集中力や熱意、そして生活全般のウェルビーイングに大きな影響を及ぼしました。成績の悪い生徒が多く、中退してしまう者もありました。私自身も、影響を受けなかったとは言えません。

私は学校を中退する代わりに、いじめっ子たちと友だちになりました。思い切って、平和の価値や、一緒に平和的に過ごせたらどんなに素晴らしいかを彼らに語りました。思いやりが私のテーマでした。

私は、思いやりの価値とはどのようなものかについて、学校の皆の注意を引くために実践を始めました。私たちが通っていた学校は設備が整っておらず、椅子も足りませんでした。天井から雨漏りし、雨季にはいつも教室が水浸しでした。このせいで、教室の濡れていないところで椅子の取り合いが発生しました。こうした状況から、さらに頻繁に口喧嘩が起こり、教室内は混とん状態になりました。私は教室内で椅子を取り合うのではなく、雨の日には 1 時間早く登校し、教室の水を掃き出すことにしました。それから、濡れているところにモップをかけたところ、教室内が快適になり、落ち着き、平和になったのです。

当初、抗争相手のコミュニティ出身の生徒たちは、私が頑張って掃除をしたところに気軽に座ることができない様子でした。しかし、私はどこにでも好きなところに自由に座るよう彼らを手招きしま

した。私がモップがけをしたところは、私の同じコミュニティ出身の友だちだけのものではない、と彼らに伝えました。私は同じクラスの全員に同じように伝えました。私は全員に対して思いやりの心を抱いていました。お互いに争い合うのを見るのが、とても悲しかったからです。

私は、部族に関わらず皆にとって快適な教室になるよう、雨季の間中ずっと掃除を続けました。すると、ある時から、他の生徒たちも協力してくれるようになりました。私は、敵対しているコミュニティ出身の生徒と私のコミュニティ出身の生徒に、お互いへの思いやりの心、愛、配慮を持つように説きました。私たちは協力し合い続け、持っていたものを全て共有しました。平和が戻り、私たちの間に広がりました。

幸い、雨季が終わると教室は乾きました。しかし、私たちの間に育まれた平和が「干上がる」ことはありませんでした。私たちは互いの家を行き来するようになり、親たちもそれを止めませんでした。これは、クラス中、学校中の他の生徒たちにも影響を与えました。今、私たちの不完全な過去は消え去り、共に平和に過ごしています。危機的状況も減り、以前のように猛威を振るうことはありません。

親切になり、あなたが配慮していることを他の人に示しましょう。これらは全て、思いやりに包まれています。世界中の若者が、結束し、あちこちでお互いに小さな思いやりを示すこともできるかも知れません。私たちはいつかそこに到達するはずです。若者たちは過去の過ちを正し、人々が人種や年齢、性別、宗教に関わらず平和に共存する未来を創造することができるのです。

皆が、特に若者たちが配慮や思いやりを持てたならば、きっと自分たちが心から望む平和な世界を実現できるはずです。